

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	基本戦略1 活力を生む地域産業・生業を支える	項目	雇用創出、女性の活躍促進、産業振興（全般）、農林業、商業、工業、交通インフラ
-------	------------------------	----	--

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
雇用創出 ➢ ●給料面では首都圏等とは差があるが、鹿角市は自分でクリエイティブなものを生み出すことができる可能性を持った地域である。(第1回) ➢ ▲まちづくり中高生アンケートによると、「卒業後は市外に出る」と考えている層で「地元には仕事がない」という声が多い。就きたい職業があっても、地元で実現している人が身近におらず、現実的に自分の将来に結び付けて考えられない若者が多いのではないか。(第1回) ➢ ▲有効求人倍率は2倍を超えた時期もあるなど、引き続き1.00倍を大きく上回る高水準が続いている。一方、市民アンケートでは、施策「雇用の安定」の強化を求める声が続くことから、雇用環境が好転しているとの実感はない。(処遇改善、賃金格差に対する意見が多い)	【理想の姿】 ➢ 若者の起業・創業により、好循環な雇用創出が生まれるまち ➢ ふるさとに愛着を持った中高生が地域課題に向き合えるまち	【考え方】 ➢ 無いものを自ら作り出す力や起業するスキルなどを、学生から大人まで幅広い年代が学ぶことができる環境が必要である。(第2回) ➢ ふるさとへの愛着と仕事を通じて地域課題を解決していくことの連動が必要である。高校2年生を対象とした地元企業説明会は有効な手段である。 ➢ まちの課題を自分事として考え、意見を提案した「かづの未来の若者会議」の意識をまちづくりに生かしていく必要がある。	【実施主体・共働の相手】 ➢	【何をするか】 ➢ 3 意欲のある就労を支援する ・ 都会で経験を積み、学んだスキルを生かせる30代中盤くらいのUターン者を増やし、その年代が起業して、そこで働く地元20代の居場所をつくっていく。(第1回)
女性の活躍促進 ➢ ▲市民アンケートでは、男女の地位が平等と感じる割合は4人に1人。男性が平等と感じる割合が高まっている一方、女性は低下傾向にある。 ➢ ●ICTを活用したテレワークの普及による柔軟な働き方の推進により、女性のフリーランスや起業家が生まれている。	➢ 性別にかかわらず、個性や能力を発揮できるまち	➢ ワーク・ライフ・バランスの実現や女性も男性もともに活躍できる環境整備が必要であり、世界の課題を集約したSDGsのゴールにも符合する。	➢	➢ 4 女性の活躍を促進する
産業振興（全般） ➢ 自分の子どもに、(鹿角市で暮らす、働く)夢や希望を語っている親はどれだけのいるのだろうか。(第1回) ➢ ▲若者の県外流出は、仕事の関係や給料などの差が大きい。(第1回) ➢ ▲賃金水準が低く、若年夫婦のみでの生活が大変である。鹿角市でのスタンダードな暮らしは、三世代家族など、大家族であることが前提のように感じる。(第2回) ➢ ▲市内総生産は、引き続き伸び悩んでおり、秋田県平均を下回る状況に変化なし。(資料集P32) ➢ 本市の産業構造に従業者数で捉えると、「医療・福祉」が最も多く、次に「卸売業・小売業」、「製造業」、「建設業」と続いているが、「医療・福祉」だけが増加傾向にある。(資料集P20) ➢ 付加価値額で捉えると、「医療・福祉」が全体の約3割を占めており、次いで「建設業」、「卸売業・小売業」、「製造業」の順に大きい。(RESAS)	➢ 地域資源を活用し、稼げる産業があるまち ➢ 企業連携や業種間連携によって地域産業が活性化するまち ➢ 産業の付加価値が高まり、市民所得の向上や雇用の確保が図られるまち	➢ 子育て世代(30、40代)が子どもに夢を語るには、きちんと稼げているかが重要だ。(第1回) ➢ 企業や団体等が連携しながら技術力、企画力、販売力等のノウハウを共有し、産業全体の稼ぐ力を強化していく必要がある。 ➢ 移輸出入収支額では、農業が最もプラスとなっていて外貨を稼いでおり、今後も可能性のある産業と考えられる。(逆に、移輸出入収支額がプラスの産業が少ないのが本市の弱み。) ➢ 製造業で付加価値を生み出している「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「食料品製造業」の更なる高付加価値化のほか、移輸出入収支額プラスへの取組が有効と考えられる。	➢	➢ 2 地域産業の育成を支援する ・ 鹿角の地域資源の価値を高め、利益を出せる仕組みを地域全体で考える。(第1回)

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
農林業 ➤ ▲農業の跡継ぎが不足している。(第 1 回) ➤ ●販売のあった農業経営体の複合経営の割合は 25.5%となっており、県平均(15.2%)を大きく上回っている。(H27 農林業センサス) ➤ ●H27 の農家数は、2,189 戸(うち、販売農家数 1,607 戸)となり、経営耕地面積も減少を続けているが、農家数の減少率に比べ、経営耕地面積の減少率は緩やかである。(資料集 P23) ➤ 農業従事者の平均年齢はH27 時点で 67.5 歳と高くなっているほか、農業後継者がいる販売農家の割合は 54.8%となっている。(資料集 P24) ➤ ●法人化している農業経営体はH27 時点で 28 経営体と増加傾向にあるほか、1 経営体当たりの経営耕地面積も 2.6 ha と増加している。畑の耕作放棄地面積は減少している。(資料集 P24)	➤ 若者が農業で稼げるまち	➤ 本市の農業は製造業や観光関連産業と並んで重要な外貨獲得産業となっており、若者のスキルを生かした農業展開が必要である。 ➤ 農業産出額については、「豚」が4 割強を占めているほか、「米」「野菜」「果樹」も多く緩やかな増加傾向にある。産出額の維持・増加のためには、①高齢化等による労働力不足を埋める労働力投入(新規就農・法人化)やスマート農業による省力化、②農地集積による生産性の向上、③複合経営の一層の推進が必要である。 ➤ 戦後植林され伐採期を迎えている木材の活用や、森林の更新(再造林など)が必要である。		➤ 1 販売力のある農林業を支援する ・ブランド農産物の高付加価値化を図り、収益を増加させるアグリビジネスを確立する。 ・Society5.0 に対応した「スマート農業」の導入・普及を図る。
商業 ➤ ▲事業所数、従業者数、年間商品販売額のいずれも減少。(資料集 P22) ➤ ▲空き店舗は 40 店舗と減少を続けているほか、アンケートでは商店街組合員の 45%が、今後 10 年以内の廃業もしくは事業承継の見込みがない状況である。 ➤ 平成 23 年の秋田県による買い物動向調査によると、地元購買率は 61%で、大館市等への流出が見られたほか、商店街では食料品の割合が18.4%であった。	➤ 快適で魅力ある中心市街地が形成されたまち ➤ コンパクト+ネットワークのまちづくり	➤ 商店街は、商業の振興ばかりでなく「中心市街地」としての都市機能の向上、高齢化社会における利便性の向上など、コンパクトなまちづくりにおいて重要なエリアである。 ➤ 通信販売などの普及により、品物の購入は店頭販売に囚われない形態が続いていくため、空き店舗や空き物件の利活用については、来店によって受けられる体験やサービスの提供が重要。		➤ 2 地域産業の育成を支援する
工業 ➤ ●H29 の事業所数は 65 事業所となり減少傾向にあるが、従業者数は 1,699 人と一定規模が維持されている。また、1 事業所当たりの出荷額は 33,966 万円と上向いており、高度化支援などの成果により市内企業の技術力が高まっていると考えられる。(資料集 P21) ➤ 近年は、企業の海外シフトにより、製造業の誘致は難しく、地元企業の連携推進や高度化支援の両輪で取り組んでおり、「電子部品などの製造業」「食料品製造業」で付加価値を生み出している。	➤ 強い基幹産業が地域経済をけん引するまち	➤ 地元企業の振興が本市経済の発展や雇用の確保に極めて重要であり、技術の高度化や企業間連携を引き続き支援する必要がある。 ➤ エネルギー産業との親和性を深め、地域発の製品化を実現させることで、移輸出入収支額プラス産業への成長を目指す。		➤ 2 地域産業の育成を支援する ・製造業のメイドイン鹿角製品を全国に普及させ、他産業への応用技術を開発する。
交通インフラ ➤ 産婦人科の分娩機能集約のように、様々な機関が集約されることが予想される。近隣市への交通インフラの整備が必須ではないか。(第 2 回) ➤ 東北自動車道の 2 つのインターチェンジに接続する主要幹線道路が生活の利便性と生産性の向上をもたらす高速ネットワークを形成している。 ➤ 市内の各拠点を結ぶ幹線道路では、冬や朝夕の通勤時間帯に渋滞が発生している。	➤ 交通環境を生かし、産業を集積できるまち ➤ コンパクト+ネットワークのまちづくり	➤ 広域的な北東北の交通拠点としての利便性を生かし、産業団地へ新たな産業の立地を進める必要がある。 ➤ 人口減少社会の中で、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、全世代が安心して快適に暮らせるよう、交通インフラの長寿命化を図りながら、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める必要がある。		➤ 5 幹線道路の整備を進める ・産業立地に必要な交通インフラを整備する。 ・道路や橋の長寿命化対策を行う。 ・コンパクトなまちづくりを行いながら、バスやタクシー等を活用した公共交通ネットワーク網を形成する。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	基本戦略2 元気で健やかな暮らしを支える	項目	子育て、地域医療・保健、高齢者の暮らし、障がい者福祉、自治会活動
-------	----------------------	----	----------------------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【実施主体・共働の相手】	【何をするか】
子育て ▶ ▲合計特殊出生率は県内トップレベルにあるが、15～39歳女性人口が減少しているため、出生数の減少にも影響している。(資料集P56・57) ▶ 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査(H31.3)では、理想とする子どもの人数は2人が最も多く47.1%で、次いで3人が41.2%であった。また、現実と相違する場合の要因についての考えでは、経済的負担が大きいとの回答が88.2%と最も多かった。 ▶ ●認定こども園などのハード整備も進み、待機児童は発生していないほか、放課後児童クラブでの高学年受入についても順次開始している。また、平成30年度から子育て世代包括支援体制により、妊娠から出産、子育ての総合的な支援を実施している。	▶ 子育て世代に選ばれるまち	▶ 子どもが少なくなっていくと寂しさを感じる。子どもを地元で生める環境をもう一度整え、良い方向に向かえばよい。(第1回) ▶ 2人以上の多子を希望するニーズが多く、本市の特長である合計特殊出生率の高さにも重なる結果である。手厚い支援策を展開してきたが、親世代の希望をかなえ、出生数の向上に結び付く更なる対応が求められる。	▶	▶ 8 安心して子育てができる環境をつくる ・ 子育てには最高の場所であるというイメージを発信する。(第2回)
地域医療・保健 ▶ ▲産婦人科がないので若い人が定着しない、子どもが生まれない、県外の学校に行って戻ってこないという悪循環になっている。(第1回) ▶ ▲かづの厚生病院では、17診療科中7診療科(呼吸器内科、神経内科、皮膚科、産婦人科、耳鼻科、眼科、精神科、麻酔科)で常勤医が不在で、医師不足は深刻である。 ▶ ●▲かづの厚生病院の医師についてはH29に循環器科2人、H30には泌尿器科1人、精神科2人の常勤医が確保されたが、同年10月から分娩機能が大館市に集約された。 ▶ H30から地域医療推進員を配置し、医師との面会によるネットワークづくりや医師就学資金貸与医学生とのコンタクトを強化している。 ▶ ▲心疾患、脳血管疾患の死亡率は減少傾向にあるが、県平均より高い。 ▶ ▲自殺率は県平均が低下傾向にあるが、本市は県平均を上回っている。 ▶ ●日常生活動作の自立期間の平均は男性が県平均を上回っている。	▶ 安全安心な医療体制が確保されたまち	▶ 医師の確保は引き続き重要な課題である。 ▶ 自殺者のうち高齢者の割合が高く、人とのつながりが予防につながることから、地域ぐるみの健康づくりが一層重要となる。	▶	▶ 7 適切な医療を受けられる体制を整える
高齢者の暮らし ▶ ●高齢者にとっては良いまちだと感じる。(第1回) ▶ 介護施設は増えているが介護を受ける側がどのようなサービスを希望しているかが大切ではないか。(第2回) ▶ 高齢者のみの世帯が増加するにつれてサービスの多様化や介護費用の増大が見込まれる。 ▶ ▲介護施設の整備により特別養護老人ホームの入所定員は6施設で333人まで増加したが、希望者全員への入所には対応できていない。 ▶ ●介護支援ボランティアや生活支援ボランティア制度により、元気な高齢者が支える側として活動できる体制が構築されている。	▶ 住み慣れた地域で安心して生活できるまち ▶ 高齢者が個性や能力を発揮し生涯活躍できるまち	▶ 高齢者数を維持し、健康で長生きしてもらうために高齢者対策に予算をかける必要がある。(第1回) ▶ 介護施設に限らず、在宅介護の希望にも寄り添えるコーディネーターが必要である。(第2回) ▶ 介護需要の増大に備え、医療・介護・介護予防・生活支援・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステムの早期構築が求められている。	▶	▶ 9 高齢者のいきいきとした暮らしを支援する ・ シルバーリハビリ体操等を通じて元気な高齢者を増やす。(第1回) ▶ 6 健康寿命の延伸に取り組む

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
障がい者福祉 ➤ ●障がい者就労に関しては、雇用主の理解や就労者のマッチングなど、継続的な支援により、雇用率（H30 2.0％）は上昇している。	➤ 障がいのある人が地域で自立した生活を送ることができるまち	➤ 就労を通じて社会参画を促進し、地域で自立した生活を送ることが重要である。また、SDGs の理念とも符合する。	➤	➤ 10 障がい者福祉の充実を図る
自治会活動 ➤ 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化しており、自治会など市民団体との「共動」による取組が地域づくりに欠かせない原動力を担っている。 ➤ ▲価値観の多様化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われており、コミュニティ活動への働く世代の参加が少なく自治会の機能低下や活動維持が難しくなっている。	➤	➤ 自分たちでできることは、自分たちでやる努力も必要。市は、補助金を出すだけでなく、環境づくりについて指導が必要である。(第2回) ➤ 子どもや高齢者の見守り、青少年の健全育成、良質な生活環境の確保等において地域コミュニティが良好に維持されることへの期待は増しており、「共動」の取組を手本に、できる時にできる範囲で協力し合える仕組みが必要である。	➤	➤ 36 民間活力を引き出すまちづくりを推進する

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	基本戦略3 快適で安らぎのある暮らしを守る	項目	住みごこち、都市基盤、生活交通、環境、住宅
-------	-----------------------	----	-----------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【実施主体・共働の相手】	【何をするか】
住みごこち ➤ ▲市民アンケートによると、住みごこちについて 30 代の子育て世代の数字があまり良くない。どれだけ大人が子どもに対して、鹿角市を印象良く見せられるかが大切である。(第 1 回) ➤ ●移住者や観光客から鹿角の自然がすばらしいと聞く。全国で災害が多発している中、鹿角市は災害が少ない。これが住みごこちの良さにつながっているのではないか。(第 1 回)	➤	➤	➤	➤ 11 快適な生活環境を確保する
都市基盤 ➤ H30 時点で市道の舗装率は 58.7%、水洗化率は 69.5%となっているが、道路については量的整備から、通学路などの交通の安全を確保する質的整備が課題となっている。 ➤ ●中心市街地の歩行者数や居住人口は減少しているが、これまで、公営住宅の建設や、年間 30 万人以上の利用が継続されている文化の杜交流館、歴史民俗資料館の整備のほか、中心市街地へのアクセス向上を図る駅前広場整備事業も進んでいる。	➤ 快適な都市空間が整備されたまち	➤ 道路等のインフラを含め、公共施設等の老朽化が進んでおり、統廃合・長寿命化の推進による維持管理の最適化が求められるほか、未利用公共施設の利活用が課題となっている。 ➤ ハード面の整備は計画通り完了するため、歩いて暮らせるまちづくりや、滞留人口を生むソフト対策が重要である。	➤	➤ 11 快適な生活環境を確保する ➤ 19 災害に強いライフラインの構築を進める
生活交通 ➤ 地域公共交通活性化協議会のもと、路線維持のための事業者への支援のほか、新たにデマンドバスの手法を導入するなどして、生活交通の維持・確保に努めている。	➤ 快適で安心安全な交通ネットワークが整備されたまち	➤ 高齢化は進むが、過度にマイカー依存することなく暮らすことができる環境づくりが必要であり、地域の実情に合った交通手段の導入について、事業者と一体となった取組が重要である。	➤	➤ 13 公共交通を利用しやすい環境を整備する
環境 ➤ ▲自然など、豊かな環境が身近すぎるため、鹿角の良さに気づいていない市民が多い。(第 2 回) ➤ ●快適環境まちづくり市民会議で実施しているクリーンナップ活動や、リサイクル活動の実践により、環境保全の意識醸成は図られている。	➤ 鹿角の自然の豊かさを守り、未来へつないでいくまち	➤ 豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくためには、クリーンエネルギーの利用など、環境への負荷が少ない持続可能な社会を構築することが重要である。また、SDGs とも符合する。	➤	➤ 15 農村の魅力を生かしたまちをつくる ➤ 14 ごみの適正処理と資源リサイクルを進める ➤ 16 地球温暖化防止に取り組む
住宅 ➤ 漫然と現状維持の意向を持っている空き家の所有者が多く、解体や利活用に向けた働きかけが課題である。(資料集 P 63)	➤ 住宅が適正に管理され、利活用が促されるまち	➤ 人口減少等に伴い空き家問題が深刻化し、防災・防犯・衛生面での問題も発生しているなか、住まいの耐震化、リフォーム、既存住宅の流通など、総合的な住宅ストック活用型市場への転換が求められている。	➤	➤ 12 住まいの整備や利活用の総合対策を進める

➤ ハード面の整備は計画通り完了するため、歩いて暮らせるまちづくりや、滞留人口を生むソフト対策が重要である。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	基本戦略4 暮らしの安全・安心を高める	項目	防災、交通事故・防犯、消防・救急
-------	---------------------	----	------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【実施主体・共働の相手】	【何をするか】
防災 ➤ ●平成23年の東日本大震災や、近年の異常気象と考えられる豪雨災害を経験し、市民の防災に対する意識が非常に高まっている。 ➤ ●自主防災組織の組織化が進み、地域の防災力が向上している。(資料集P70)	➤ 災害への備えと防災の意識の高いまち	➤ 地震や豪雨などの自然災害の発生を止めることは不可能なため、その被害をいかに軽減するかが命題であり、①ハード面として、災害に強いライフライン、公共施設の耐震化、治水対策を進めるとともに、②自主防災力の更なる向上や、個人による日ごろからの備えが不可欠である。	➤	➤ 17 自主防災力の向上を図る ➤ 19 災害に強いライフラインの構築を進める
交通事故・防犯 ➤ ●交通事故件数及びそれに伴う負傷者数は、H25に一時的に増加したが、以降減少傾向にある。(資料集P67) ➤ ●交通事故に伴う死者数は、H24からH28にかけて増加したが、H29以降は減少している。(資料集P67)	➤ 誰もが安全で安心して暮らせるまち(交通事故の減少、犯罪の少ないまち)	➤ 交通事故件数(死者数)は減少傾向にあり、引き続き対策の継続が必要である。	➤	➤ 20 交通事故を減らす取組を進める ➤ 21 防犯対策を進める
消防・救急 ➤ 火災発生件数はH28から減少し、近年は横ばいとなっている。火災発生原因で最も多いのは、たき火(火入れ)となっており、ストーブや電気配線を原因とするものも毎年数件発生している。(資料集P70) ➤ 救急出動件数は、H23以降減少傾向にあったが、H27から再び増加に転じ、以後横ばいで推移している。出動原因で最も多いのが急病であり、全体の7割を占めているが、一方で不搬送件数もH27以降100件を超えており、全体の約10%を占めている。(資料集P70)	➤ 誰もが安全で安心して暮らせるまち(火災が少なく、救急体制が確立されたまち)	➤ 火災発生件数は横ばいであり、消防体制の維持が必要である。	➤	➤ 18 消防・救急体制の強化を図る

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	基本戦略5 未来にはばたく人材を育てる	項目	学校教育、社会教育、芸術文化、地域の特色ある教育
-------	---------------------	----	--------------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
学校教育 ➤ ●学力については引き続き、全県平均レベルを維持している。 ➤ ●学習環境については、児童生徒の減少（資料集 P 77・78）を見込んだ学校等再編計画による統廃合を進め、適切な学校規模による授業や、学校給食が提供されている。 ➤ ●ふるさと学習では各学校の特色ある活動が国の表彰を受けるなど、ふるさとの良さの発見や愛着心の醸成が高められている。また、ふるさと・キャリア教育では、コーディネーターによる地元企業との調整が円滑に行われ、児童生徒の職場体験・職業見学の受け入れが拡大している。	【理想の姿】 ➤ 社会を生き抜く力を持った子どもたちを育むまち	【考え方】 ➤ 引き続きキャリア教育を推進するとともに、予測困難な時代にあっても、国際化や技術の進歩に対応しながら、社会の形成に貢献できる資質・能力の育成が重要である。 ➤ 今後も児童生徒数の減少は進むため、さらに次世代の学校再編が必要である。 ➤ グローバル化や ICT の進展などにより、社会は大きく変化しており、未来に生きる力の育成が重要である。	【実施主体・共働の相手】 ➤	【何をするか】 ➤ 22 子どもから青少年の生きる力を育む ➤ 23 良好な学校教育環境を整備する
社会教育 ➤ ●まちづくり中高生アンケートの結果を見ると、地域の伝統文化の継承や活動が活発な地域に住む生徒の数字が良い。地域活動はこれからも大切である。(第 1 回) ➤ ▲大人と子どもの距離感が遠くなっているように感じる。親子間だけではなく、地域が親戚のようになれば、まち全体で一体感を感じられるのではないか。(第 2 回)	➤ 生きがいを持ち、誰もが精神的豊かさを感じられるまち	➤ 市民の自発的な学習・活動の場は充実しているため、地域にある学校を核に、地域と家庭が共に特色ある教育活動を展開していくことで、未来の人財が育てられていくことが重要である。	➤	➤ 22 子どもから青少年の生きる力を育む ➤ 25 自主的な学習活動を支援する
芸術文化 ➤ ●花輪ばやしが「花輪祭の屋台行事」としてユネスコの無形文化遺産に指定されたほか、大湯環状列石を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」も 2021 年の登録が見込まれている。さらには、「毛馬内盆踊り」についても、全国 33 保存団体の連合により世界遺産登録を目指している。 ➤ ●歴史民俗資料館が整備され、鹿角の繁栄を支えてきた産業や人々の営みに触れる企画展も開催され、年間約 2 千人の来館者となっている。	➤ 多様な芸術文化を身近に感じられるまち	➤ 文化財など、末永く後世に伝えるための継承者の育成、維持管理、保存が重要。 ➤ 保存のみならず、その活用も視野に入れた整備が必要であり、類まれな資源と、その資源を生んだ歴史風土や民俗を活かした交流の活性化が求められる。	➤	➤ 25 自主的な学習環境を支援する
地域の特色ある教育 ➤ 足りないものがあれば生み出すことができることを子どもたちに知ってもらう必要がある。そのような機会を積極的に提供することが将来の鹿角市にとっての種まきとなる。(第 1 回) ➤ ▲ふるさと教育に取り組まれているが、昔に比べて、子どもたちが十和田八幡平などの鹿角の自然に触れる機会が減っているように感じる。(第 2 回)	➤ 生きる力を生かし、必要なものを創造できるまち	➤ 都会と同じものを田舎に作ることは地域の課題解決にはつながらない。(第 1 回) ➤ 学校統合をしても教育の質を落とさない必要がある。知識を教えるだけではなく、鹿角の良さを受け止められるような教育が必要である。(第 2 回)	➤	➤ 24 地域の特色ある教育活動を実施する

➤ 今後も児童生徒数の減少は進むため、さらに次世代の学校再編が必要である。

➤ グローバル化やICTの進展などにより、社会は大きく変化しており、未来に生きる力の育成が重要である。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	経営戦略1 まちに人・モノ・外貨を呼び込む	項目	対流促進、観光業、外貨の獲得、スポーツツーリズム、エネルギーの地産地消
-------	--------------------------	----	-------------------------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 （ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲）	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
対流促進 ➤ ▲市民アンケートによると、子どもが大学生ぐらいの世代（50 代）が「住みごこち」が良くないと感じる割合が多い。子どもの卒業後の進路にも影響してくるのではないかと。（第 1 回） ➤ 自分の経験を通じて、地元を離れることで地元の良さが見えてくると感じる。（第 1 回） ➤ 一度外に出て戻ってくる人がほとんどいないのは、鹿角の魅力が分からないからではないかと。（第 1 回） ➤ 昔は家を継ぐという意識が強い時代だったが、今でも（U ターンのかきかけとなる）親子の関係は（普遍的な価値観として）大切に守っていく必要がある。（第 1 回） ➤ ●人口減少に対し、危機感を持つ市民が多くなったように感じる。民間主体のワークショップなども増えており、どういふまちにしていきたいかを自分たちで考えようとする市民が増えた。（第 2 回） ➤ そもそも、なぜ人口が少ないといけないのか。（第 1 回）	【理想の姿】 ➤ 鹿角に戻りたいと思えるまち	【考え方】 ➤ 一度都会に出てから戻りたいと思うのは、子どものときの経験が大切。大人がこの地域で楽しんでいる姿や活気のあるまちの姿を見て、自分が住んでいる地域の良さを思うことができる。（第 1 回） ➤ 子どもを地元から出ないようにするのではなく、外で様々な経験を積んで戻ってきた方が厚みのある人生になる。（第 1 回） ➤ 子どもが都会に憧れを持つのは成長過程で健全だと思う。ふるさとの良い面を比べられる目を持つことは良いこと。（第 1 回） ➤ 人口減少が地域経済に及ぼす影響は、需要の減少よりも供給力の低下による影響の方がはるかに大きく深刻である。	【実施主体・共働の相手】 ➤	【何をするか】 ➤ 26 人や地域の活力を生む交流を促進する ● 鹿角の良い部分を子どもたちが小さい頃から伝えていく。（第 1 回） ● 大人が鹿角の暮らしを楽しんで子どもを巻き込む、まちの自慢を子どもたちに伝えていく。（第 1 回） ● 若者たちが鹿角で可能性を感じられるような教育と戻って仕事に就ける環境を整備する。（第 1 回）
観光業 ➤ ●世界遺産登録が進むなど、本市は類まれな資源に恵まれていることが再認識されている。 ➤ ●外部人材の登用など、「(株)かづの観光物産公社」の組織強化により、日本版地域 DMO が確立され経営改善につながったほか、東日本大震災以降低迷していた観光客数・宿泊者数が増加に転じた。（資料 P 25・26）	➤ 国内屈指の地域資源を生かし、世界各国から観光客が訪れるまち	➤ 効果的な情報発信と着地型観光商品の充実が必要である。 ➤ ICT 活用による戦略的な観光振興、インバウンドの強化が必要である。 ➤ 道の駅「おおゆ」を観光拠点に加え、十和田八幡平間を結ぶルートによる市内消費の最大化を図っていくために、資源を活用した滞在型コンテンツの開発・展開が重要である。	➤	➤ 27 稼げる観光振興を推進する
外貨の獲得 ➤ 平成 23 年鹿角市産業連関表によると、農業、製造業（電子部品）、電気・ガス・水道（電力）、サービス（宿泊業）の生産額が域内需要を大幅に上回っている。これらの産業は、地域の需要をまかないながらも、余りある生産物を域外へ売却して外貨（所得）を稼ぎ出している産業となっている。 ➤ 電子部品を除く製造業や一部のサービス、情報通信、商業などでは域内需要の多くを移輸出に依存している。 ➤ ●これまでブランド化を図ってきた北限の桃やかづの牛、淡雪こまちに加え、啓翁桜や新テッポウユリ、シャインマスカットなどの新ブランドの育成がなされている。	➤ 地域資源を活用し、稼げる産業があるまち ➤ 企業連携や業種間連携によって地域産業が活性化するまち	➤ 外貨が獲得できる産業を伸ばし、利益の確保が所得の向上と雇用の安定につながる循環型経済を確立していく必要がある。	➤	➤ 29 新産業や次世代産業の創出に取り組む

➤ 子どもを地元から出ないようにするのではなく、外で様々な経験を積んで戻ってきた方が厚みのある人生になる。（第1回）

➤ 子どもが都会に憧れを持つのは成長過程で健全だと思う。ふるさとの良い面を比べられる目を持つことは良いこと。（第1回）

➤ 人口減少が地域経済に及ぼす影響は、需要の減少よりも供給力の低下による影響の方がはるかに大きく深刻である。

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ 10 年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)		STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
スポーツツーリズム ➤ ●▲「スキーと駅伝のまち」を掲げて大会誘致を行うのは評価できるが、協議関係者以外からの認知度が低い。(第2回) ➤ ▲地元の子どもがスキーに親しむ機会も減っている。(第2回) ➤ ●東山スポーツレクリエーションエリア内の競技施設の整備により、スポーツ環境は一層の充実が図られている。 ➤ ●「スキーと駅伝のまちづくり」を進めており、スキーについてはほぼ毎年全国規模の大会が行われている。 ➤ ●チャレンジデーへの参加は、全市的なスポーツに親しむ機会の創出に寄与している。		➤ スポーツを通じて、さまざまな人々が鹿角で交流できるまち ➤ スキーや駅伝の競技関係者以外の認知度を高める必要がある。(第2回) ➤ スキーがもっと身近で活発な取組になればよい。(第2回) ➤ スキーや駅伝競技の盛んな地域特性を生かして、競技人口の底辺拡大のほか、まちづくりへの波及を高める必要がある。 ➤ 競技スポーツの振興のほか、生涯スポーツとして多くの市民がスポーツに親しむ機会を増やす必要がある。		➤ ➤ 28 スポーツツーリズムに取り組む	
エネルギーの地産地消 ➤ ●電源資源が豊富な地域の特長を生かし、電力資金の域内循環を目指す地域電力小売会社「かつのパワー」を設立し、エネルギーの地産地消の取り組みがスタートした。		➤ 豊富なエネルギー資源が利活用され、市民生活に潤いをもたらすまち ➤ 今年度設立された地域電力小売会社「(株)かつのパワー」の取組を加速させ、豊富なエネルギーを生かした鹿角ならではの取組を進める必要がある。		➤ ➤ 30 エネルギーの地産地消に取り組む	

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	経営戦略2「世界遺産のまち」をつくる	項目	文化振興、産業との連携、環境整備
-------	--------------------	----	------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
文化振興 ➤ 鹿角市の文化財をそのまま10年後、20年後、30年後にすべて持っていけるかと考えると難しい面もある。(第1回) ➤ ●本市には、ユネスコ無形文化遺産である「大日堂舞楽」と「花輪ばやし」、世界文化遺産への推薦が決定した「大湯環状列石（北海道・北東北の縄文遺跡群）」など、国内外から高い評価を受けている文化財がある。さらには、「毛馬内の盆踊り」を含む「風流（ふりゅう）」が、2022年ユネスコ無形文化遺産の登録を目指すために本格始動することとなり、実現することで4つの世界遺産を抱える国内屈指の都市となる。	【理想の姿】 ➤ 文化財が子どもたちへと継承されていくまち	【考え方】 ➤ 残す努力と取捨選択する目を養い、現実感のあるまちづくりも大切である。(第1回) ➤ 何世代にも渡って、暮らしの中で守り受け継がれてきた文化財の歴史的価値に対し、市民全員で向き合っていくことも重要である。	【実施主体・共働の相手】 ➤	【何をするか】 ➤ 32 歴史文化に親しむ環境をつくる
産業との連携 ➤ ●世界遺産登録が相次いで実現している中、世界級遺産の活用を都市ブランド推進の中核に据え、「世界遺産のまち」であることのイメージ戦略や地域DMOと連携した着地型旅行商品の開発が進んでいる。	➤ 観光振興と文化振興が融合したまち	➤ 今ある文化や資源をどう活用するか、どのように発信するかが大切である。(第2回)	➤	➤ 31 文化財の保存と活用に取り組む
環境整備 ➤ ▲世界遺産を豊富に抱えるまちでありながら、文化財周辺の景観を守るルールづくりがなされていない。	➤ 世界遺産が映える景観の美しいまち	➤ 「世界遺産のまち」を形成していくためには、核となる歴史的資産だけではなく、周囲の山並みや河川などを含めて景観形成を考えていかなければならない。	➤	➤ 33 歴史遺産に映える都市景観をつくる ・計画策定に向けた調査等（R2）に基づき、計画書の策定や景観条例の制定を行う。

かづの未来会議テーマ別意見集約シート〔第2回会議意見反映後〕

戦略・方針	経営戦略3 まちの経営力を高める	項目	鹿角市の財政状況、地域情報化、鹿角市全体の経営力
-------	---------------------	----	--------------------------

【凡例】赤字＝委員意見、黒字＝市分析事項

STEP 1 鹿角市の現状・問題と課題 (ここ10年で鹿角市の良くなったところ●・そうでないところ▲)	STEP 2 目指すべき理想の姿となぜそう思うかの考え方		STEP 3 目指すべき理想の姿を実現するための取組	
	【理想の姿】	【考え方】	【実施主体・共働の相手】	【何をするか】
鹿角市の財政状況 ➤ 歳入決算額はおおむね180億円台で推移している。(資料集P38) ➤ 地方税は30億円台で推移しており、地域経済の低迷による法人税や入湯税、固定資産税の若干の減少はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。(資料集P39) ➤ 歳出決算額は、H18は150億円だったが、近年は180億円台で推移している。(資料集P42) ➤ ●将来負担比率は、財源の確保と抑制を徹底した予算編成に努めてきたことから、県内類似団体と比較すると相当低い。また、実質公債費比率も、地方債の償還額と発行額のバランス等を考慮してきたことから、同じく県内類似団体と比較しても低い。(資料集P36・37) ➤ ●財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、扶助費や繰り出し金が年々増加傾向にあり、自由度が減ってきている。(資料集P46)	➤ 健全な財政運営と自主財源の確保により、市民活力へ財政投資できるまち	➤ 人口減少社会において、地域間競争に打ち勝つためには、健全な財政運営の維持とともに、積極的な歳入確保に努め、地域活性化の好循環を生む市民活力へ財政投資できる構造をつくっていく必要がある。	➤	➤ 34 財政の自由度向上に取り組む
地域情報化 ➤ ●本市のインターネット普及率は77.9%(市民アンケート)となり、H30情報通信白書による全国の80.9%や秋田県71.5%に比べても低いレベルから脱している。 ➤ ●民間ではフリーWi-FiなどICT利活用によるサービスが提供され、利便性が高くなっている。	➤ 未来技術の活用によって、市民の利便性が向上するまち	➤ さまざまな民間サービスなども参考にしながら積極的に行政サービスにもICTを導入し、市民の利便性向上と、行政サービス提供のコスト削減を図っていく必要がある。	➤	➤ 35 スマート自治体を推進する
鹿角市全体の経営力 ➤ ●秋田県市町村経済計算をみると、製造業や観光業など外貨獲得産業においては、市内総生産が上がっており、経営力の強化が図られている。 ➤ ●市民一人当たりの市内総生産及び市民所得も増加傾向にあり、市全体での底上げが図られている。	➤ 市全体が持続可能な経営力をもつ	➤ 行政だけではなく、事業者、団体、自治会など、あらゆる組織が将来において持続可能な経営力を持ち、それぞれの役割分担のもとで鹿角市を活性化させていく必要がある。	➤	➤ 36 民間活力を引き出すまちづくりを推進する